



第 139 号

発 行 者

東筑摩塩尻教育会

編 集 者

会誌会報委員会

未来を見つめて

東筑摩塩尻教育会長 三溝 裕子



おかげで東筑摩塩尻教育会総集会を無事行うことができました。今年度は新たに来賓の皆様をお招きしたり、開会音楽として音楽研究会の先生方の合唱「カイト」や、会場参加者全員による「信濃の国」斉唱を行うことができたりと、また一歩、本来実施したかった姿に近づくことができました。

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響のある中、新学期がスタートしました。ウィズコロナの中、どの学校も今できることを判断し、最善の方法を模索しながら教育活動を行ってきました。また、五月に新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、感染対策をしながらも教育活動は幅が広がり、子どもたちが笑顔で活動する姿を見る場面が多くなってきました。

五月十三日に、多くの皆様のご協力の

会員発表は、英語教育研究会の丘中学校校宮坂晃会員から「小中で連携して進める英語教育」について発表していただきました。「小学校から中学校への移行の重要さがわかった。小中連携の思い、実践を聞くとても良い機会となりました。」「中学校での英語教育の取り組みがよく分かってよかったです。」などの感想をいただきました。例年会員発表は、教科等研究会や各種研究委員会から発表していただいています。それぞれの研究会

や委員会で積極的に研究や学びを深めていることを発表していただける良い機会となつています。今後、教育研究発表会や会報、会誌でも活動の様子や成果を発表していただきます。東筑摩塩尻教育会の研修の大きな柱として今後も活発な取り組みを期待しています。

また、小平奈緒さん、結城匡啓先生の講演会「唯一無二の自己表現へ」では、小平さんの生き方に触れ、人と人とのつながりから生まれる学びの大切さを改めて教えていただきました。会員の皆さんからは「心を揺さぶられる言葉、世界を見てきた方ではか出せない表現に、夢中で聞き入りました。」「自分を見つめひたむきに進む姿、友だちとしてフェアにライバルとつながる姿、どの人にも分け隔てなく誠実に向き合う姿に、人間性のすばらしさを感じ、感動しました。」「恩師との再会も感動的でした。改めて教師として、将来の人を育てるという責務を感じました。」「等々、本当にたくさんの感想をいただきました。明日への一歩に力をもらえる講演会になりました。ありがとうございました。」

わたしたち教員は、子どもたちと向き合い、職員同士で学び合い、保護者や地域の方とも語り合い、協力していただきながら日々を過ごしています。今、やるべきことは山ほどあり、日々仕事に追われていることも事実です。そんな中で今を見つめ、明日のためにできることを精一杯行っていくことも大事であると同時

に、もう少し先、一年後とか二年後、またはもう少し長く五年後十年後の自分を見つめて、今少しでもできることを広く考えることも必要ではないでしょうか。そのためには、自分の価値の中だけの狭い範囲で見てもよりよいは、より多くの人、それも同年代だけでなく先輩や後輩、違う職種の方など、自分の価値観を変えたり広めたりできる出会いや経験が必要になってきます。今、同じ東筑摩塩尻の地で教員として子どもたちと向き合っている私たちが、自ら求め、共に学び研鑽を積み重ねて教育会があります。コロナ禍を経て、時代の流れの中で、何を大切にしていったらよいか考え、語り合い、行動していくことで次の一歩が見えてくると思います。自分だけの経験で見える世界はわずかです。人から学ぶ中には、自分のためだけでなく、時には誰かがやってくれることで自分に返ってくるものもあります。また、今自分のやっていることはすぐには自分に返ってこないこともあります。でも誰かの役に立っていることもあります。たまたまここに集う仲間がいることも意味があると思います。自分の今から未来を見つめ、自分の今から周りを見つめて、教育観、子ども観を磨くことが私たちには必要です。教育会の学びの目的でもあります。これまで多くの先輩方がつなげてきてくださった東筑摩塩尻教育会の学びを未来の先生方、子どもたちにつなげることも私たちの役割でもあります。

特集

令和五年度 東筑摩塩尻教育会総集会

令和五年五月十三日(土) 塩尻市レザンホール



令和五年五月十三日(土) 塩尻市レザンホールにて、公益社団法人東筑摩塩尻教育会総集会が開催されました。今年度はほぼコロナ禍前の形式で開催され多くの会員の方々が参集しての開催となりました。開会音楽では音楽教育研究会の発表や会員の信濃の国の合唱が行われました。

今年度の会員発表は英語教育研究会より「小中で連携して進める英語教育」と題して丘中学校宮坂晃先生の実践を発表していただきました。

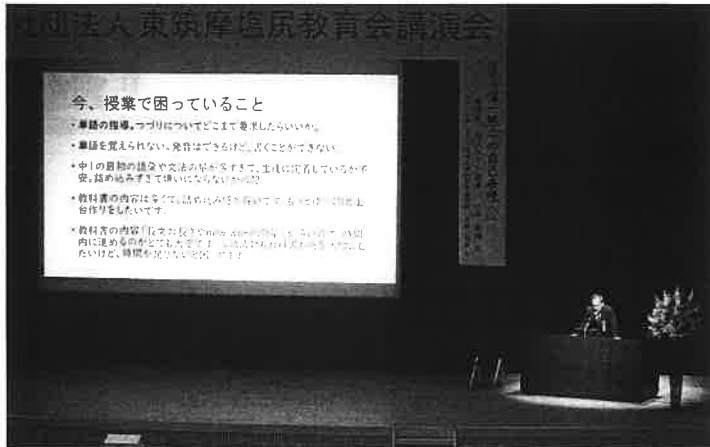
講演会では、元スケート選手の小平奈緒さんとファシリテーターとして信州大学教育学部教授結城匡啓さんをお迎えし「唯一無二の自己表現へ」と題してご講演頂きました。

会員発表

英語教育研究会

「小中で連携して進める英語教育」

宮坂 晃



二〇二〇年度に小学校で、そして二〇二二年度からは中学校で、新学習指導要

今、授業で困っていること

- ・単語の指導。つづりについてどこまで要求したらいいか。
- ・単語を覚えられない。発音はできるけど、書くことができない。
- ・中1の最初の語彙や文法の量が多すぎて、生徒に定着しているか不安。詰め込みすぎて嫌にならないか心配。
- ・教科書の内容は多くて、詰め込み感が強いです。もっとゆっくりと土台作りをしたいです。
- ・教科書の内容(長文の長さやnew wordsの量)が多いので、時間内に進めるのがとても大変です。言語活動も教科書も両方大切にしたいけど、時間が足りない困ってます。

今、授業で困っていること 2

- ・個人のタブレットでのデジタル教材の活用方法/ICT活用
- ・クラス全員が楽しく習得すべきことが定着できているか
- ・ALTの先生と授業の打ち合わせをしている時間がない。
- ・週に2時間の専科と児童の関係の作り方。生徒指導。
- ・特別支援学級での指導

評価について悩んでいること

- ・3観点になったが、つけにくいわかりにくい。
- ・知技と思利表のバランス、評価素材の軽重(通知表に関して)
- ・パフォーマンステストの仕方
- ・パフォーマンステストの時間やwritingを統一させること
- ・パフォーマンステストの評価規程が難しい(特に「やり取り」)
- ・小学校の段階(5, 6年)で児童一人ひとりのスピーキングテストは必要かどうか
- ・学校間で通知表の評価項目が違うこと。

領が本格実施となって以来、英語教育に
関して非常に大きな変化が起こりました。
英語教育研究会では、小学校で英語を担
当する先生方と中学校英語科の先生方が
「自主研修の日」に集まって、そうした
変化に対応できるように研修を行ってき
ました。

昨年度は、それぞれの学校で悩んでい
ることや工夫していることをグループの
中で出し合って共有しました。小学校で
は新学習指導要領となって三年目、中学
校でも二年目であり、実際の授業を行う
中で様々な難しさが出てきていることが
明らかになりました。

多くの学校で悩んでいることとして、
扱う単語の数の増加があげられています。
小学校では六〇〇〜七〇〇語の単語を扱
うこととなり、中学校ではそれに加えて
一六〇〇〜一八〇〇語の単語を扱うよう
になりました。それも、小学校で扱う単
語は小学校で聞いたと言ったりして慣れ
親しんできたという前提で、中学校の教
科書に登場することから、特に中学一年
生での負担感が大きいという感触を持っ
ている先生が多いです。この辺りは、教
科書に出てくる単語をすべて同じように
覚えて使えるようにしなければならな
い、という意識を変えて行かなければなら

外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

小中高を通して同じ

外国語科の目標

小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を磨き、外国語による関わりを通して、語彙・文法・発音・聴き取り・読み取り・書く・話す・表現の能力を高め、外国語によるコミュニケーションの能力を育成することを目標とする。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を磨き、外国語による関わりを通して、語彙・文法・発音・聴き取り・読み取り・書く・コミュニケーションを必要とする場面でのコミュニケーション能力を育成することを目標とする。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を磨き、 <u>異文化理解の能力を育成すること</u> と <u>コミュニケーション能力を育成すること</u> を目標とする。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を磨き、 <u>異文化理解の能力を育成すること</u> と <u>コミュニケーション能力を育成すること</u> を目標とする。

外国語科の目標（知識及び技能）

[illegible]

外国語科の目標（思考力・判断力・表現力等）

	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
(思考力、 判断力、 読解力 等)	① 外国で暮らす生活について、外国に誇りを持ち、なりたい自分や夢や志望などを伝え合う力を見えさせる。	② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の意思や考えを伝えたり、聞いたりしたがることをし、言語で十分に表現し見たり聞いたりすることや相手の考え、感情や態度を揣摩すること、語彙や表現の広がりや豊かさを意識することを通して、外国語を学ぶ意欲を高める。	③ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>言葉の機能や社会生活の場面に必要な表現</u> を適切に用いたり、 <u>自分の考えや感情を表現したり</u> することを通して、 <u>外国語を学ぶ意欲を高める</u> 。	④ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 <u>言葉の機能や社会生活の場面に必要な表現</u> を適切に用いたり、 <u>自分の考えや感情を表現したり</u> することを通して、 <u>外国語を学ぶ意欲を高める</u> 。

外国語科の目標（学びに向かう力、人間性等）

	小学校第3年及び第4学年 外国語活動	小学校第5年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
(学びに向かう力、人間性等)	(3) 外国語を通して、「言葉が文化に与える影響」に関する理解を深め、外国に広がる視野をもち、外国に広がる世界について、主体的に関わりあう。主体的に関わりあうコミュニケーションを創出しようとする態度を養う。	(3) 外国語の学習にある文化に対する理解を深め、国語に学ぶ力と共通し、他言語に共通する文化、言語的表現に共通する文化、言語的表現についてコミュニケーションを創出しようとする態度を養う。	(3) 外国語の学習にある文化に対する理解を深め、国語に学ぶ力と共通し、他言語に共通する文化、言語的表現に共通する文化、言語的表現についてコミュニケーションを創出しようとする態度を養う。	(3) 外国語の学習にある文化に対する理解を深め、国語に学ぶ力と共通し、他言語に共通する文化、言語的表現に共通する文化、言語的表現についてコミュニケーションを創出しようとする態度を養う。

いのでしょうか。それにしても扱うものが多すぎて、小学校で十分に慣れ親しむというところまでもつていくのは、大変困難なものかと思います。それを踏まえて中学校での語彙指導を行うことが子どもたちにとってわかる英語、自分で使える英語を身につけるために必要なことなのかもしれません。

さて、新学習指導要領での外国語の目標は、自分の考えや必要な情報を英語で伝えたり、相手と英語でコミュニケーションをとったりすることをこれまで以上に重視しています。そして、その目標は、もちろん学校段階が小学校から中学校、

中学校から高校へと上がっていくに伴ってより高度なものになっていくわけですから、小学校五・六年では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次の通り育成することを目指す」とあり、中学校では「言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を」とあります。小学校で積み上げてきた力を中学校で更にのばし、高校では

もつと高度なコミュニケーションを目指していくわけですが、正直なところ、そのために必要な環境が整っているかという点、まだまだだと思います。小学校も中学校も、一クラスあたりの人数がもつと少なくなると良いと、個人的には思います。

このような中でも、小学校、中学校それぞれで先生方がとても頑張つて授業を工夫しているということが共有されました。例えば、単元の目標（ゴール）を設定するときに「誰に」「何を」「何のために」伝えるかを具体的に示すことや、「目的・状況・場面」を明確にして、子ども

たちが言語活動に臨めるようにしています。また、Kahoot!やBlooketを使って学習事項を確認するというように、ICT機器を利用して子どもたちの興味を引き出しつつ、必要なところをおさえていくと取り組んで来ている先生方がいます。

そしてまた、今はまだ実現できていないけれど、これから取り組んでみたいということを持っている先生方がいます。

児童生徒のICT端末をどのように使えばよいか考えて、単元テストやスピーキングテストなどに利用できるのではないかと活用を検討している先生。デジタル教科書をどのように使っていくかと考えている先生。小学校段階で英語に興味を持てるような活動を考えたいという先生。小学校段階で学んできた内容を活かしながら、更に中学校としてレベルアップした英語を学べるような授業をしたい、という先生。また、特別支援学級の子も通常学級の子も、ともに学びあえるような英語の授業をしたいという先生。小中で授業を見合ったり、子ども同士交流したりしたい、という先生。それぞれの先生方が持っている「こんなことをしてみたい」ができるだけ実現するように、これからも英語教育研究会で研修や交流の機会をつくって行けると良いと思います。

会員の感想

小平奈緒さんの講演を聞いて

瀬原田英之

信州で生まれ育ったメダリストのお話を生で聞くことができるということ、とても楽しみにしていました。

講演では、長きに及ぶ鍛錬の日々から得たものを数々紹介してくださいましたが、その中で自分が印象に残った言葉を三つ記したいと思います。

「自分で選んだ道だから、失敗してもすべて正解」

「ピンチの時に、『よし』と思うか…」

今、授業で工夫していること

- ・「必然性」をいかにもたせるか、単元のゴールを常に「目的・状況・場面」を明確にし、子どもが自分の考えや気持ちを伝えたり聞いたりする場面を多くしている。
- ・基本表現の練習活動で、できるだけ使用場面を意識した活動になるように工夫している。
- ・単元のGoalの設定 誰に、何を、何のために
- ・単元のまとめに、kahoot!やblooketといったゲームを使って知識の定着につながれば、と思い続けている。

これから工夫してみたいこと

- ・Chromebookを使って単元テストを実施したり、Speaking, Writing test といったパフォーマンステストを実施していきたい。
- ・生徒用デジタル教科書の活用
- ・小学校段階で英語に興味を持てるように活動を考えています。
- ・小学校で学んできた内容を生かしながら、中学ではレベルアップした英語を学べるような授業をしていきたい。
- ・たくさん話すチャンスを作る。
- ・特別支援の子どもたちも通常学級の子どもたちもともに学び合えるような学習のやり方。

小中連携について

- ・小学校と中学校でお互いの授業を見合うことの大切さを感じました。
- ・小中の連携についてお互いに、どうやって教えているのか、習ったことをどう使っていくのかについてよく知れました。
- ・小中連携のあり方について、授業を見合うこと、教材・教科書を見合うことがまず第一歩であることを確認しました。
- ・小中連携、お互いの授業を見たりなど、もっと交流をしたい。実際にしてみたい!(今すぐにも) または中学生と小学生の交流等もあれば、授業も楽しさが生まれるのかも。

今後の英語教育研究会

- ・先生方の悩みが軽くなるように…
- ・児童生徒の主体的な学習を導けるように…

(丘中学校)

「取り返しのつく失敗はあえてやらせる」
その中でも三つ目の話については、日々の指導で、こちらが望んだ結果を出させるために、子どもたちを枠にはめて指導しようとしていないか、子どもたち主体の学習指導ができていないのか、自身を戒める貴重な機会となりました。このような研修の機会をいただくことができたことに感謝し、日々の教育活動に打ち込みたいと思います。

(塩尻東小学校)

総集会 講演会を聞いて

橘 佳乃子

小平さんのお話の中で共感できること、学べたことがたくさんありました。

することもあります。そんな時、自分の選んだ道は間違っていたと考えてしまうこともありそうですが、「自分で決めた道だから失敗も成功もすべて『正解』と思うようになった。」という言葉聞き、自分を丸ごと受け止める自己肯定感の高さを感じました。そういう風に思えたからこそ思い切った挑戦できるのだなと思いました。

もう一つ心に残っているのは、ライバルについてです。自分を高めていくためには、時にライバルが必要です。ライバルを敵とみるか相手とみるかで考え方は大きく違うんだなと思いました。敵とみれば相手を嫌になつたり引きずりおろしたくなつたりする気持ちが生まれてしまいます。相手とみれば共に頑張ってい

る仲間として認める気持ちが生まれてきます。互いを尊重し、違いを分かろうとし、その人が積み上げてきた努力を認め、励ましあえる仲間を見つけていくことこそ、教育の現場にも必要な考え方だと思えました。人は考え方によって進む方向も変わってきます。このような考え方を活かしていきたいものです。

(吉田小学校)

Wie is de baas?

宮澤 修司

以前からテレビ報道や新聞紙面などで、小平さんの思いの一部は見聞きしておりましたが、同じ会場で小平さんの言葉を



直に聞いたことで、ご本人の人物や温かさなどを直接感じることができたように思います。

特に心に残っている言葉はオランダ修行時代の「Wie is de baas?」です。不安な気持ちでいっぱいだったかと推測しますが、消極的にならずに、「主役は自分だ」との気持ちで自信をもって取り組むことが、その後の大きな成長につながったのかと思いました。私も悩み、迷いながら指導支援にあたる日々ですが、「自分がやらなきゃ誰がやるんだ!」との気持ちで、子どもと向き合いたいと感じました。

豊平小時代の担任、青森先生の字が美しかったことや、学級目標を覚えていたことに驚くとともに、青森先生とのやり取りも印象的でした。良い機会をいただき、たいへんありがとうございました。

(筑北中学校)

令和5年度

塩筑教育会組織

役員

会長(代表理事) 三溝 裕子(桔梗小)
副会長 戸辺 修(宗賀小)
理事 清沢 剛(事務局長)
柳生さよ美
村上きよみ

小坂 幸恵(書記)

監事

藤松 隆雄(聖南中)

常任委員長

赤津 勝広

副委員長

大池 昌弘(山形小)

常任委員

名取 充(塩尻東小)

総会

議長

堀内 紀子(片丘小)

副議長

実原 基成(榑川小中)

小松

秀樹

堀内 哲也

小野 織江

田村

秀則

堀内 紀子

滝沢 紀子

大池

あゆみ

赤瀬 大樹

田中 正幸

仁城

崇晴

堀内 勝

百瀬 公則

松田

歩

吉山 美穂

塚原まゆみ

西沢

克弥

元田 武久

青木 修

桑原

英治

清都しのぶ

古田 寿浩

原田

聡

南原 真理

実原 基成

中山

敦

杉山 勝美

倉科 高志

高橋

信

本年度事業計画

一 各種研究委員会の推進について

1 各種研究委員会の性格

各種研究委員会は、東筑摩塩筑教育会の目的である「会員相互の研鑽により、職能向上に努め、以て文化の進展に貢献する」を達成するための大きな柱である。具体的には次の三点を踏まえて進めていく。

- 1) 研究や実践、並びにそれらの情報収集・情報交換を通して、会員相互の人間関係に密にし、職能の向上を図る。

- (2) 塩筑教育の課題を解決するため、できる限り会員の要望に応え、地域に密着した研究活動をする。

- (3) 塩筑教育の進展を期するため、会員やその他の教職員及び地域内児童生徒の教育のために、奉仕的な仕事をする。

2 研究主題および委員名

- (◎) 世話係 ○ 委員長

課題追究部

教育課題検討ア(塩尻1・中央)

中一ギャップ解消のための取り組みとその成果の共有

- ◎小坂寿樹(広陵中) ○手塚健介(広陵中)

- 松村健太郎(丘中) 上條水穂(朝日小)

- 町田恵美(桔梗小) 常田武俊(片丘小)

- 宮澤史生(山形小) 大野幸子(広丘小)

- 松岡 純(吉田小)

教育課題検討ウ(塩尻2)

一人一台端末を活用した授業のあり方

- ◎上條勝利(両小野中) ○元田武久(両小野中)

- 犬飼竜馬(塩尻西部中) 瀧澤 考(塩尻中)

- 奥原征彦(塩尻東小) 西原正裕(洗馬小)

- 市田祐基(宗賀小) 武田あかね(榑川小中)

- 伊藤龍生(塩尻西小)

教育課題検討イ(北部)

小・中との連携(特別支援の子どもの引きつぎについて)

原学級と特別支援学級との連携の仕方について

- ◎藤松隆雄(聖南中) ○塚原章治(筑北小)
峯村貴子(生坂中) 西森瑞恵(聖南中)

西澤順子(筑北中) 小林大茂(生坂小)
田中真由美(麻績小)

作品展運営部

書道展委員会

児童生徒の書写力・鑑賞力を高め、指導者の資質の向上を図るための県展審査及び巡回書道展の企画・運営

- ◎富田昭子(吉田小) ○柳澤志濃(生坂小)

- 谷口奈美子(吉田小) 木下 諒(両小野中)

- 古川真美(広陵中) 丸山美穂(山形小)

科学展委員会

科学教育の振興と探究的な児童生徒の育成

- ◎小松 猛(生坂中) ○上條隆久(桔梗小)

- 末次さとみ(広丘小) 牧 健太(塩尻中)

- 栗林太郎(塩尻西部中) 望月省吾(筑北中)

美術展委員会

各校の児童生徒の作品研究を通して児童生徒の表現に対する見る目を養う。

巡回展を通して、多くの児童生徒の作品と接し、美的感覚を高める。

- ◎山本直佳(片丘小) ○北村知香(片丘小)

- 濱 敦(塩尻西小) 濱島千絵(吉田小)

- 上條達矢(丘中) 川松 賢(生坂中)

読書感想文委員会

児童生徒が読書の楽しさを感じ得るような読書感想文の書き方の指導はどうあつたらうか。

- ◎大野征二(塩尻西小) ○才田理恵(聖南中)

- 川村茉衣(塩尻東小) 小澤雅子(桔梗小)

- 岩原弥生(洗馬小) 上條亜以子(朝日小)

事業部

会誌・会報委員会

教育会会員の教育実践、各校の活動紹介を中心とした親しみやすく読みやすい会誌会報の発行

◎大池昌弘 (山形小) ○野本雅代 (山形小)

島田美香 (塩尻東小) 柳澤ふゆ子 (桔梗小)

傳田貴彦 (広陵中) 笹川美佐子 (丘中)

小松徳子 (榑川小中) 伊藤未波 (麻績小)

資料室委員会

データと資料室の照合

◎宮沢芳明 (生坂小) ○松原大也 (広丘小)

中野邦彦 (塩尻西小) 倉科結衣 (宗賀小)

高塩那津巳 (塩尻中)

情報ネット委員会

教育会の活動の様子を広く紹介する。

◎伊藤尊夫 (麻績小) ○森村 忍 (榑川小中)

鈴木百合恵 (広丘小) 高橋 花 (筑北小)

二 県外視察・自主研究

県外・県内視察研修 募集人数 六名

自主研修 (信濃教育会「教育論文・教育実

実践)

・塩筑教育会からも研究助成金が出ますので、奮って応募ください。

三 助成事業

教科等研究会

国 語

◎大野征二 ○井出宏幸

・日本国語教育学会長野地区研究集会へ

の参加

・夏期研修会への参加

・松本支部との共催授業研究会の開催

・学会誌「信州国語教育」「会報」の発行 等

社 会

◎千村哲朗 ○石巻窓之介

・夏期研修

・実証授業による研究推進 等

算数・数学

◎藤松隆雄 ○宮川幸浩

・授業研究会への参加

・県の研修会への参加

・松本支部との合同研修会 等

理 科

◎小松 猛 ○松村健太郎

・授業研究委員会

・実験講習委員会

・研修委員会

・HP運営委員会 等

音 楽

◎細山和寿 ○倉科直美

・自主研修の企画運営 等

図工・美術

◎黒田敏樹 ○徳竹夏生

・夏期実技研修絵画講座 (県美研)

・「長野県児童生徒美術展」「今を生きる子どもの絵展」の審査

・長野県美術教育研究大会 等

体 育

◎上條勝利 ○上原雄次

・郡研究授業

・定例学習会

・全国学校体育研究大会 等

技術・家庭科

◎山本秀樹 ○志甫知紀

・自主研修の日

・研修会の計画と実施 等

英 語

◎白井伸明 ○原 朋絵

・英語教育研究会

・自主研修の日 等

道 徳

◎伊藤尊夫 ○堀内紀子

・自主研修の日

・松本市道徳教育研究幹事会夏期研修会

・長野県道徳教育学会 上伊那研究大会 等

特別活動

◎小坂寿樹 ○小澤雅子

・自主研修の日 等

哲学 (コスモスの会) ※休会

◎戸辺 修

・座禅会

・松本哲学同好会との合同読み合わせ会 等

文化財

◎小林 真 ○小澤英明

・自主研修の日 等

書写書道

◎富田昭子 ○谷口奈美子

・自主研修の日

・県書写書道教育研究大会参加 など

学 校 園

◎宮崎 聡 ○田中 亮

・自主研修の日 等

保 健

◎名取 充 ○大槻祐美

・自主研修の日

・第2回研修会 等

カウンセリング

◎大池昌弘 ○可知貴彦

・松本との合同研究会

・自主研修の日

・松塩筑合同研修会 等

情報教育

◎宮沢芳明 ○小松 誠

・自主研修の日 等

総合・生活科

◎山本直佳 ○塩川一砂子

・自主研修の日

・教育課程研究協議会参加 等

発達障がい支援

◎黒沢幸喜 ○古旗雅子

・講演会の実施

・事例検討会・教材研究 等

◆◆◆ 編 集 後 記 ◆◆◆

先生方の活動や思いについて寄せていただき、共有し研修を深められるよう願って編集してまいります。
お忙しい中ご寄稿くださいました皆様に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

